

5月20日に行われました、中国大使館薛劍公使参事官による講演会には、多くの皆様にご聴講頂きました。

## 「今の中日関係にまつわるいくつかの疑問」

講演者 薛劍公使参事官

### 1、中日関係の実態はどうか？

この数年間、両国の間では、いろんな所から問題が出てきて、「中日関係はどこに向かっていくのか」、「大丈夫なのか」という懸念が生じています。両国関係の実態はいったいどうなのか？われわれは冷静かつ客観的に分析し判断しなければなりません。

全体的に言えば、両国政府、民間各界の努力により、中日関係は改善に向かっていますが、「改善の勢いが弱い」、「進展が思わしくない」とも見られています。歴史的な視角からみると、中日関係がすでに大きな転換期に入っています。特に2010年に中国がGDPで日本を抜いたことから、いろんな変化が出始めました。当時、私は東京勤務で、GDPの状況の変化に伴い問題が生じると予感しましたが、現状は当時の予感より複雑になっています。例えば海の問題や、国際的な場でのぶつかり合いがどんどん出ています。このような状況がすぐ収束するかと言えば、そう簡単ではなく、両国は忍耐強くこの事態を乗り越えなければならないと私は思っています。

その一方で、両国間に広範な共通利益があり、協力の潜在力も十分にあります。第一に、中日両国間には四つの政治文書があり、その一つが「平和友好条約」です。この条約は両国の議会によって批准承認された重要な文書です。これによって、両国の強固な政治的基礎が打ち立てられました。

第二に、両国間の貿易額は3000億ドル近くに上ります。日本から中国への累計投資額も1000億ドルを超え、二万三千社以上の日本企業が進出しています。逆に中国からの対日投資も進み、中国の有力企業が日本で業務を順調に展開しています。これまでの経済交流は、どちらかと言えば日本から中国への流れが圧倒的でしたが、今後は双方向の経済交流となり、これにより、中日関係の基盤はより強固なものになるでしょう。

第三に、人的交流です。去年、来日中国人観光客は600万人を超えました。中国を訪問した日本人も200万人を超えました。両国の間で、このような大規模な人的往来は二千年に及ぶ交流の歴史の中で初めてのことです。皆さんにはぜひその意味を深く理解して頂きたいと思えます。また、日本には中国人が80万人居住しており、日本人と結婚して家庭を築いている人達も大勢います。その他、文化など様々な交流が中日間では行われています。

第四に、中日両国の共通利益は、二国間にとどまらず世界や地域に広がっています。今後、共通の利益を見出し、中日関係の発展のためのエネルギーとして活用できたらと思います。そういう意味で、「一带一路」という大きな流れで、中日の協力が進められればと期待しています。



7月31日(月)日本語科納涼大会

### A 先生の新語コーナー



## yiyǎngjiéhé “医养结合”

「養は、養老」の略。医療・介護結合。人口の高齢化が急速に進む中国で近年提唱されている新しいタイプの介護モデル。主には介護施設が医療機関と連携して入居者に医療衛生サービスを提唱するというもの。これまでは管轄官庁が異なるため、医療サービスと介護サービスが別々に提供されていた。昨年末の時点で、全国の60歳以上の高齢人口は2億3000万に達し、総人口の16.7%を占める。中国は2021年から2035年にかけて高齢人口増加の2度目のピークを迎える見通し。(A)

私の結論は、今の中日関係はそれほど心配する必要はないということです。時には、いろいろな問題が出てきたりしますが、両国には非常に堅固な基礎があるので、もうちょっと自信を持って、表面的な現状に自信喪失状態に陥らないよう、前向きな取り組みをしていくべきではないかと思います。

## 2、中国は日本にとって脅威なのか？

日本国内では長い間ずっと中国脅威論があります。それはまったく現実と乖離した認識だと思えます。先ほども言いましたが、政治的には、両国間に四つの政治文書があります。とりわけ「中日平和友好条約」の締結により、両国は恒久的な平和友好関係を発展させ、すべての紛争を平和的手段により解決し、武力または武力で威嚇に訴えないことを法的に義務付けられています。日本が中国以外でこういう重厚な条約を結んでいる外国はアメリカだけです。われわれは40年前にこの条約を結んでいたことを常に思い起こすべきです。

私は北京で三年間、日本課長を経験しましたが、あいにくその時期は「島」の問題で中日双方で激しく揉めていました。とても大変で、苦い経験でしたが、その中から何か良い教訓を引き出すとすれば、中日関係が強靱な関係であることを再確認できたことです。会議の席上では双方が激しくぶつかり、相手を非難し合いました。中国は船団まで繰り出したりしたのですが、武力衝突にまで発展することはありませんでした。これは私たちの先人たちが、この四十数年間、こつこつと地道な友好交流、人的交流、経済交流を続けてきたからこそだと思います。両国政府がこれを犠牲にしてまで、変な選択をするのか？正常の頭で考えれば可能性は「ゼロ」でしょう。

中国の軍事力については盛んに議論されています。確かにここ二十年来、中国の軍事力は速いスピードで伸びています。しかし、これは中国の成長の一部として、全く自然な事ことです。なぜかと言えば、広い国土を持つ中国は、海外利益がどんどん広がり、国民もたくさん海外に出かけている中、国の安全や正当な利益を守るために、安全保障を強化しなければなりません。日本の高度成長期も防衛費は今の中国と同じような伸びをし

ていました。ですから、中国の軍事力についても冷静且つ客観的な分析が求められると思います。日本国内では、中国は日本に対して何か悪い意図しているのではないかという大きな懸念があります。また、いずれ島を占領するのではないか、日本を中国の一つの省にしてしまうのではないかという、非常に激しい議論もあります。これはまったく的外れです。中国は日本を傷つける意図は毛頭ありません。逆に中国がそういう意図を持っているとして、自身に何かメリットがあるかと言えば、何もありません。冷静に見ればすぐに分かる話です。中国の軍事力については、あまり被害妄想に陥らないようにして頂きたいと思います。

## 3、中国経済はいずれ崩壊するのか？

中国経済「崩壊論」が数十年前からずっと言われ続けてきています。しかし、中国経済は崩壊するどころか、高い成長率を維持し続けていて、世界第2位の経済大国までに発展してきました。全体のプロセスとしては、様々な困難な課題を克服しながら経済成長を実現してきました。課題を克服してきたからこそ、成長の原動力が生まれてきたと言ってもいいでしょう。これからもまだまだ解決しなければならない課題がありますが、同様なプロセスで成長していくのではないかと思います。

国内においては、中国は経済の「新常态」に入り、中国政府は「四つの全面」すなわち「小康社会を全面的に建設する」、「改革を全面的に進化させる」、「全面的に法に則って治国する」、「全面的に党を厳しく管理する」、という戦略を進めています。これによって、中国経済や社会の活力はさらに引き出されると思います。

国外においては、「一带一路」が中国の改革開放に新しい舞台を提供するものです。これまで中国の改革開放は主に東部の沿岸部に集中してきました。「一带一路」の推進は、西方を向いた改革開放の新時代の幕開けだと言っていると思います。その新しい流れの中から新しい国際協力が展開され、それによって、中国経済がさらに活性化されることになるでしょう。いずれにせよ、中国経済はこれからも心配は要らないと思います。

(次号へ続く)

## 新任講師紹介

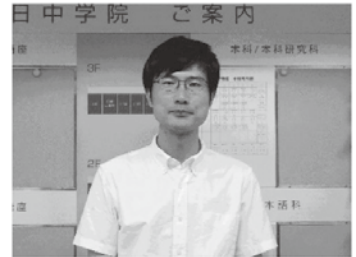
### 日本語科講師 横山悠太

皆さん、こんにちは。今年の5月から、日本語科1年生の火曜日の授業を担当させていただいている横山です。この度、この伝統ある学校の講師の一員として働けることを嬉しく思っています。

私はこれまで深圳と上海で日本語を教えてきました。中国での生活は、時に戸惑うこともありましたが、今振り返ると、楽しいことばかり思い出されます。私にとって中国は、とても魅力的な国です。いろいろなところへ旅行もしましたし、北京では大学にも通いました。ちなみに、今のマイブームは唐詩です。

日本語科の学生は、勤勉で、やる気もあって、教師としてもたいへん教え甲斐があります。勉強は、とりわけ語学学習は、日々の積み重ねが大切です。皆さんのやる気が長持ちするよう、お手伝いできればと思っています。

日本語科の学生の皆さん、いっしょに楽しく、ねばり強く、日本語を学んでいきましょう。



## 図書室 だより

### 温又柔さんの小説が 芥川賞候補作に!



本学院本科卒業生で作家の温又柔さんが執筆されました、日中学院を舞台した小説『真ん中の子どもたち』(文芸誌『すばる』2017年4月号掲載)が第157回芥川賞候補作となりました。これに伴い、この度集英社より単行本化された、本書を温さんよりご寄贈頂きました。どうぞこの機会にご一読下さい!

どうぞこの機会にご一読下さい!

また、本学院日本語科講師の横山悠太先生の小説『吾輩ハ猫ニナル』(講談社)も、第151回(2014年上半期)の芥川賞候補作です。(第57回群像新人文学賞受賞作)このご著書も図書室に配架しておりますので、どうぞお読みください。



### <その他新着図書>

- 《三体II-黑暗森林》刘慈欣著 重庆出版社
  - 《三体III-死神永生》刘慈欣著 重庆出版社
- ※中国でもっとも人気のあるSF小説として知られている《三体》。そのシリーズ3部作のうち、図

書室に未配架だったパート2、パート3がついに図書室に配架されました!

- 『対立と共存の日中関係史 共和国としての中国』東アジアの近現代史 第2巻 中村元哉 著 講談社
- 『宮柁二『山西省』論』佐藤通雅 著 柁書房

★日本の人気小説・映画の原作本の中国語訳本配架しました!

- 《火花》又吉直樹 著 毛丹青 译 人民文学出版社  
※原著は又吉直樹氏著作の小説『火花』
- 《你的名字。》新海誠 著 枯山水 译 百花洲文艺出版社  
※新海誠監督アニメ作品『君の名は。』原作小説
- 《步履不停》是枝裕和 著 郑有杰 译 ※是枝裕和監督作品 映画『歩いても歩いても』原作小説

### <今月の寄贈図書>

下記の方々より寄贈がありました。有難うございます。

- 富永涓子様(翻訳者)より『中国散文翻訳集』
- 匿名様より《牺牲》小说(周大新 著)  
《超新星纪元》小说(刘慈欣 著)  
『不屈』(陳光誠 著・白水社)



★当学院の学生は図書室を利用できます。図書貸出証は図書室で発行いたします。ご利用希望の方は図書室にお早めにお申し込みください。

# 9月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
					<b>1</b> ●本科授業再開、 倉石奨学金 募集開始	<b>2</b>
<b>3</b>	<b>4</b> ●本科避難訓練	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b> ●倉石奨学金 募集締切	<b>9</b> ●別科公開講座 13:00から (入門・基礎)
<b>10</b>	<b>11</b> ●本科倉石奨学 金発表	<b>12</b>	<b>13</b> ●本科追試 (~20日)	<b>14</b>	<b>15</b> ●中国語検定試 験 受付開始	<b>16</b>
<b>17</b>	<b>18</b> ●祝日	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b> ●別科公開講座 18:45から (入門) ●別科短期留学 出発	<b>23</b> ●祝日
<b>24</b>	<b>25</b> ●別科266期授業 最終日	<b>26</b>	<b>27</b> ●別科公開講座 18:45から (入門)	<b>28</b>	<b>29</b> ●別科短期留学 帰国	<b>30</b> ●別科朗読大会
●10月の日中学院 ・1日…本科18年度 推薦入試受付開始 ・2日…日本語科10月生 1期入学式		・6日…別科公開 18:45から(入門) ・7日…別科267期授業開始 ・16日…中国語検定受付 締切			・20日…文化祭りハール ・21日…文化祭 ・24日…本科・日本語科 文化祭代休	

## 別科パンフレットが 新しくなりました!

2017年10月から開講する別科講座のパンフレットが出来上がりました。ピンク色を基調としたパンフレットになっています。10月以降のクラスのお申し込みの際に、ご参照ください。

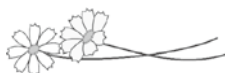


現在、10月以降の別科講座の受付を行っています。新たにクラスをお申込みされる場合や、クラスをご継続される場合、是非9月中にお手続きください。

### ○公開講座のご案内

10月の別科講座を開講するにあたり、無料の公開講座を開講します。これから当学院での中国語の学習をお考えの方は、この機会にご参加下さい。お申込みは、ホームページから、もしくはお電話にて承ります。

- ・9月9日(土) 13:00 ~ 15:00
- ・9月22日(金) 18:45 ~ 20:45
- ・9月27日(水) 18:45 ~ 20:45
- ・10月6日(金) 18:45 ~ 20:45



## 通訳ワークショップ報告

8月5日(土)に日本語⇄中国語通訳の第一人者であるサミュエル周先生にお越しいただき、「サミュエル周先生と通訳現場体験」と称したワークショップを行いました。第一線でご活躍中の先生によるお話とワークショップに、50名を超える皆様にご参加くださいました。詳細は後日ご報告します。



### ○瞳みのる先生講演会のお知らせ

11月25日(土) 13:00から

グループサウンズの元タイガースのドラマーとして活躍され、解散後は慶應義塾高校で長きにわたり中国語の教鞭をとられた瞳みのる先生にご講演頂きます。詳細は、後日学院HPなどでご案内します。

### ○別科朗読大会

9月30日(土) 午後12時から別科朗読大会を行います。今年も多くの皆様にご参加いただいております。参加をされない方も、講師による模範朗読もありますので、是非聴講にお越しください!